



佐渡市デジタル活用構想

令和5年6月策定
1.0版
佐渡市



- 第1章：はじめに
 - 今、なぜデジタルが求められているのか
 - 佐渡市におけるデジタル活用の考え方
 - 佐渡市の特性
 - まちづくりのビジョン
 - 佐渡市デジタル活用構想・計画策定の背景・目的
 - 佐渡市デジタル活用構想・計画の位置づけ
 - 佐渡市デジタル活用構想の策定方針
- 第2章：デジタル活用の推進方針
 - 実現したいこと（Vision）、取り組まなければならないこと（Mission）、大切にしたいこと（Value）
 - デジタル活用により取り組まなければならないこと
 - 基本目標1：データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり
 - 基本目標2：組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり
 - 基本目標3：時間・空間の制約を越えた、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
 - 基本目標4：情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
 - 基本目標5：デジタルネットワークを活かした、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり
 - デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿
- 第3章：デジタル活用施策
 - デジタル活用施策体系図
- 第4章：デジタル活用推進体制
 - デジタル活用推進体制
 - 佐渡市デジタル化推進検討懇談会
 - デジタル人材の育成の考え方



第1章：はじめに

今、なぜデジタルが求められているのか ～ 地方創生×デジタルの必要性 ～



現在、日本の人口は、2008（平成20）年をピークに減少しており、2050（令和32）年には、2008年比約80%である1億192万人になるとの推計があります。

供給が需要に合わせる経済へ

人口増加の局面では「需要が供給に合わせる」経済が成り立っていましたが、人口減少の局面では「供給が需要に合わせる」経済が必要になってきます。

例えば、これまでは「バス停に来るバスを待つ」といったことが、「バスが顧客の都合に合わせて動く」こととなります。

このようなことを実現するためには、需要と供給をリアルタイムで把握し、供給側の意思決定の確認を待たずに先にものやサービスを動かすような、デジタル基盤が必要になってきます。

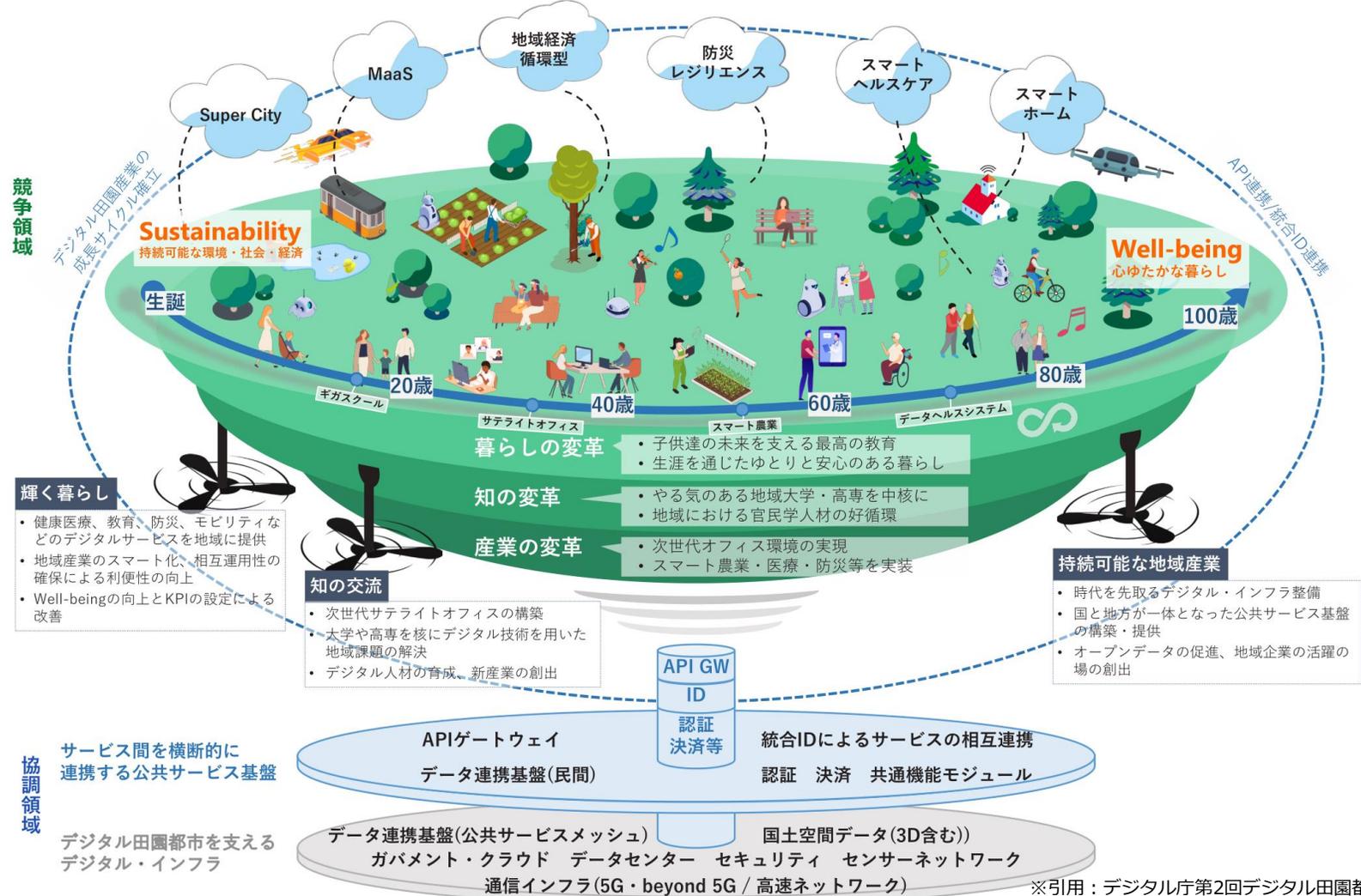
ものづくり中心の経済からサービス中心の経済へ

人口増加期には、拡大する国内市場を前提に、製造業を中心とした長いサプライチェーンに依存する「ものづくり中心の経済」を形成してきました。

しかし、人口減少期では、シェアードエコノミーなども積極的に活用した「サービス重視の経済（サーキュラーエコノミー）」への移行が必要になってきます。

進まない製造業の立地とサービス業の生産性低迷に悩む地域経済においても、デジタル技術を活用し、共助のビジネスモデルも取り入れながら、積極的に新たな生活・経済モデルを構築していくことが必要になってきます。

デジタル田園都市国家構想の取組イメージ



※引用：デジタル庁第2回デジタル田園都市国家構想実現会議資料（2021.12）

今、なぜデジタルが求められているのか ～ 地方創生×デジタルの必要性 ～



共助のビジネスモデルの必要性

市場の拡大期は、民間事業者が個別にデジタル投資を行っても投資回収ができましたが、市場の縮小期は、個別にデジタル投資を行うと投資回収できない恐れがあります。

しかし、特定の民間事業者が利用するデータ連携基盤などには、公的部門は支援を入れにくい傾向にあるため、民間事業者は、こうした基盤への投資を進めるためには共同で投資することが必要となります。

共助が支える新たなデジタル生活基盤とまちづくり

多様な生活ニーズや価値観に寄り添うサービスをデジタル技術によって磨いていくためには、複数のサービスが積極的に協力し支え合う、共助のビジネスモデルを土台としたデジタル生活基盤の構築が必要となります。

そのうえで、市民のまちづくりへの積極的な参画により新たな生活サービスを創出し、Well-Beingの向上に向けたまちづくりの好循環を生み出すことが必要となります。

佐渡市においても、今後、人口減少が進むことが予想され、市民・民間事業者・行政が連携し、デジタル活用による地方創生に取り組む必要があります。





本構想におけるデジタル活用の考え方については、人口減少社会の地方創生に取り組むにあたり、デジタイゼーション、デジタルイゼーション、デジタルトランスフォーメーションを問わず、デジタル技術の活用を図ることとします。

デジタイゼーション

(Digitization)

アナログ・物理データのデジタルデータ化

- ・アナログ情報をデジタル情報に変換
- ・部分的なデジタル化

ITシステムの導入により業務をデジタル化し、業務フローを部分的・局所的にデジタル化することです。

業務効率化の実現が主な目的であり、これまで紙で行ってきた業務をデジタル化すること等が挙げられます。

家庭では、手書きの家計簿をパソコンで入力して電子データ化することなどがあげられます。



デジタルイゼーション

(Digitalization)

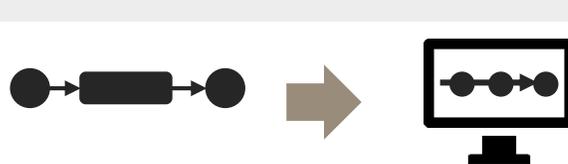
個別の業務・製造プロセスのデジタル化

- ・システムにより業務プロセスを最適化
- ・業務全体のデジタル化

システムにより特定の業務・製造プロセスをデジタル化し、プロセス全体を最適化することです。

プロセス全体を通してデジタル化することで、新たな価値やビジネスモデルを生み出すことが目的となります。

家庭では、買い物のレシートをカメラで読み取り電子データ化することなどがあげられます。



デジタルトランスフォーメーション

(Digital Transformation)

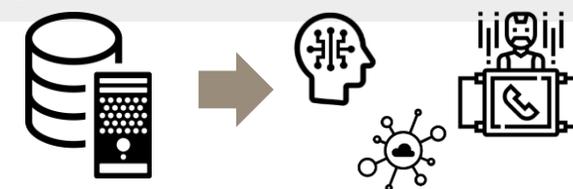
組織横断/全体業務・製造プロセスのデジタル化

- ・顧客起点の価値創出のための事業やビジネスモデルの変革

個別の業務・製造プロセスだけでなく、組織全体をデジタル化することで、ビジネスモデルや組織そのものを変革させていくことです。

デジタル技術でビジネスモデルや組織のあり方そのものを変革することが目的となります。

家庭では、決済サービス等の利用履歴から家計簿が自動生成され、家計の分析・改善につなげることなどがあげられます。





位置・地形

本市は新潟県のほぼ中央の日本海上に位置する、市域面積約855km²、人口5万37人（2023（令和5）年4月30日現在）の離島の都市です。

北側の大佐渡山地と南側の小佐渡丘陵の二列の山地と、これに挟まれた国中平野により形成されており、東には両津湾、西には真野湾があります。大佐渡、小佐渡を通じて数段に及ぶ海岸段丘が発達しており、島を取り巻く海岸線は約280kmに及びます。

島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定されており、豊かで美しい自然環境に恵まれています。

文化

本市の文化は、佐渡に配流となった貴族がもたらした貴族文化や、金銀山の発展により奉行や役人たちが江戸からもちこんだ武家文化、商人や船乗りが運んだ町人文化など、三つの文化が渾然一体となって独自の文化を育てており、「佐渡は日本の縮図」といわれています。また、特別天然記念物に指定されたトキが野生下で繁殖し生息するなど、トキと共生する島として知られているほか、江戸時代には国内随一の産出量を誇る金銀の採掘地として栄え、現在も多くの文化財が残されています。

2022（令和4）年5月には、こうした文化的背景を含め、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として、「SDGs未来都市」に選定されています。

産業

本市の産業は、農業では、トキとの共生を目指し、生物多様性保全を重視した「生きものを育む農法」による米作りのほか、おけさ柿やルレクチ工などの果樹栽培、アスパラガスなどの園芸栽培が盛んです。漁業では、脂がのった一番おいしい時期に水揚げされる寒ブリや、清浄で栄養豊富な深海に生息する南蛮エビやズワイガニなど、日本海を代表する魚介類が漁獲されています。また、観光では、世界文化遺産に推薦された「佐渡島の金山」をはじめ、世界農業遺産（GIAHS）、日本ジオパークに認定された自然、歴史、文化などの多様な地域資源を活用した滞在型観光を推進しています。

人口動態（2030年の人口予測）

	国勢調査					推計人口	
	2000（平成12）年	2005（平成17）年	2010（平成22）年	2015（平成27）年	2020（令和2）年	2025（令和7）年	2030（令和12）年
国勢調査人口	72,173人	67,386人	62,727人	57,255人	51,492人	46,870人	42,054人
対前増減数	▲2,776人	▲4,787人	▲4,659人	▲5,472人	▲5,763人	▲4,622人	▲4,816人
対前増減率	▲3.70%	▲6.63%	▲6.91%	▲8.72%	▲10.07%	▲8.98%	▲10.28%



本市では、2022（令和4）年度に新たな「佐渡市総合計画」を策定しています。

総合計画は、将来あるべき佐渡の姿と長期的な展望を市民と共有し、総合的かつ計画的な市政運営を図るための最上位計画です。

この総合計画をまちづくりのビジョンと捉え、デジタル技術の活用構想を策定します。

基本理念

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島
～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～

将来像

トキの舞う美しい島

笑顔と長寿の明るい島

人情と優しさのあふれる島

文化の薫るおけさの島

働く汗の光る島

基本目標

- 1：豊かな自然と共生した、安全で快適なまちづくり
- 2：一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまちづくり
- 3：郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
- 4：地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
- 5：心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

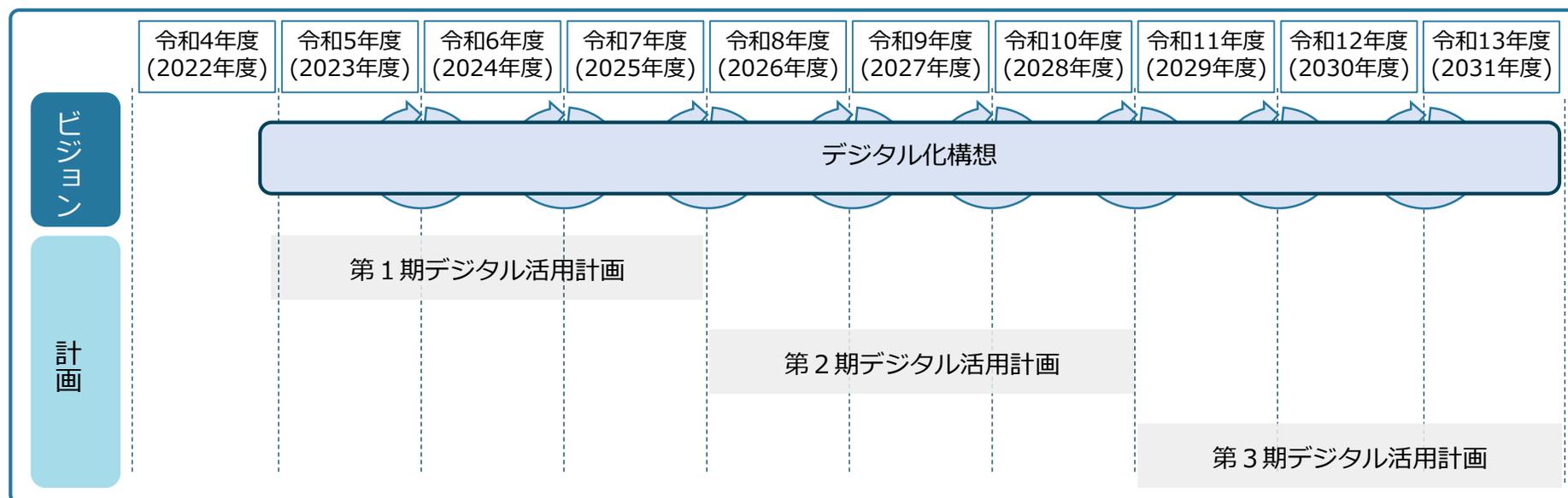
佐渡市デジタル活用構想・計画策定の背景・目的



まちづくりのビジョンの実現に貢献するための手段として、また、総務省が示す自治体DX推進計画に掲げられている重点取組事項※2等の実行に貢献するための基本的方針として、「佐渡市デジタル活用構想・計画」を策定します。

中長期的な視点により、佐渡市が目指すデジタル技術活用社会を明確化し、市民と共有するための構想及び計画とします。
また、デジタル技術の活用や社会実装に向けてコラボレーションすべき関係者や適応技術を考えるための指針になるものとして。

なお、今回策定する構想・計画については、地域課題の動向や日々進化するデジタル関連技術の動向を踏まえ、必要に応じて見直ししながら更新を図るものとして。



※2：自治体DX推進計画に掲げられている重点取組事項

- (1) 自治体情報システムの標準化・共通化
- (2) マイナンバーカードの普及促進
- (3) 自治体行政手続きのオンライン化
- (4) 自治体のAI・RPAの利用促進
- (5) テレワークの推進
- (6) セキュリティ対策の徹底

佐渡市デジタル活用構想・計画の位置づけ



「佐渡市総合計画」をもとに、佐渡市デジタル活用構想・計画を策定します。
また、「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定版となる「改定佐渡版総合戦略（仮称）」における地域ビジョンを兼ねるものとします。

佐渡市総合計画

佐渡市が目指すまちづくりの基本理念と将来像、基本目標、その実現に向けた施策の大綱を明らかにし、総合的かつ計画的な市政運営を図るための指針となるものです。
2031（令和13）年度までの基本構想と基本計画で構成されます。

デジタル活用で実現したい未来

佐渡市デジタル活用構想

佐渡市総合計画に掲げる施策の実現に貢献するための「手段としてのデジタル活用」を示すとともに、実行計画である「佐渡市デジタル活用計画」の指針となるものです。

アクションプラン化

佐渡市デジタル活用計画

「佐渡市デジタル活用構想」に掲げるデジタル施策の実現のための実行計画です。各施策のデジタル活用に関する部分を具体的に計画化するものです。

※佐渡市における自治体DX推進計画であり、国が掲げる重点項目に関する実行計画・KPIを含めるものとします。

連動



佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

「まち・ひと・しごと創成法」に基づく国の総合戦略の地方版です。
国は、2022（令和4）年度に総合戦略を抜本的に改定し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。今後、地方自治体は改定された総合戦略に基づき、地方版総合戦略を改定します。

改定

改定佐渡版総合戦略（仮称）

※今後策定予定

本市が抱える社会課題などを踏まえ、個性や魅力を生かした「地域ビジョン」を掲げるものです。
国は、地域ビジョンの実現のため、必要な施策間連携を強化し、同様の課題を抱える複数の地方自治体が連携して課題解決に取り組めるよう、デジタル活用も含めた推進策を提示します。

地域ビジョンに包含

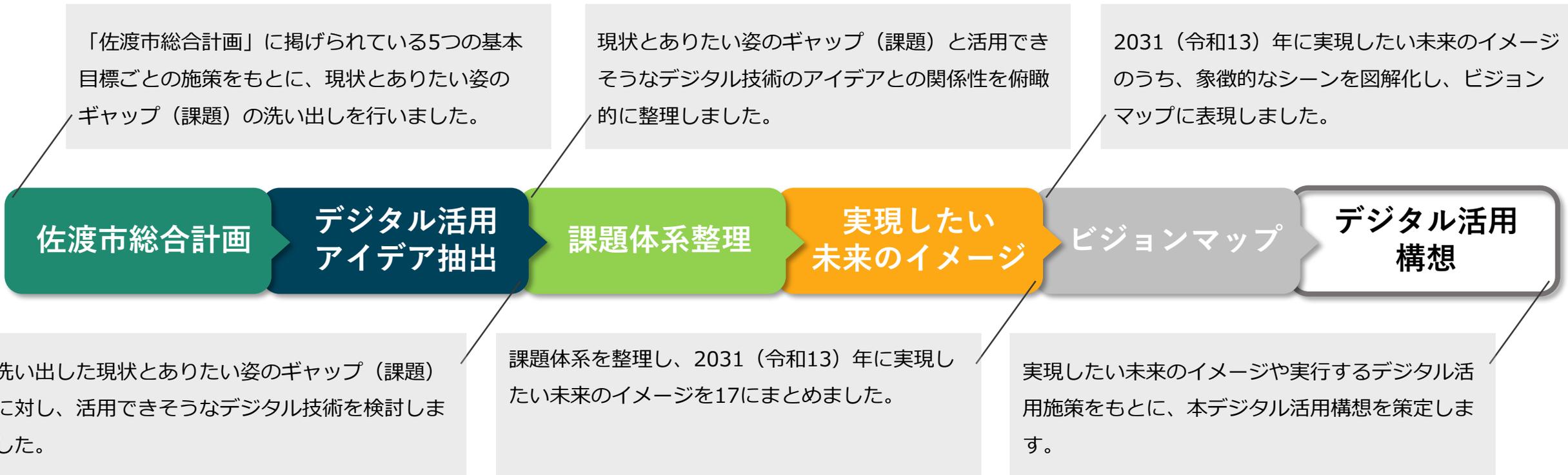
佐渡市デジタル活用構想

佐渡市デジタル活用計画

佐渡市デジタル活用構想の策定方針



「佐渡市総合計画」に掲げた施策・課題をもとに、デジタル技術の活用アイデアを抽出し、実現したい未来を描きました。また、実現したい未来のイメージを抜粋した形でビジュアルライゼーションし、ビジョンマップを作成しています。この未来のイメージからバックキャストし、2031（令和13）年のありたい姿を実現するためのデジタル活用施策を明確化しています。





第2章：デジタル活用の推進方針

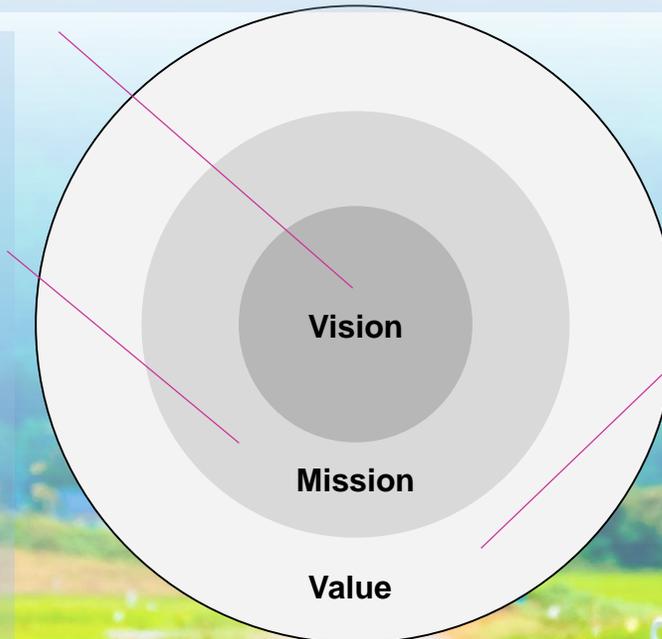
実現したいこと（Vision）、取り組まなければならないこと（Mission）、大切にしたいこと（Value）



「佐渡市総合計画」に掲げる理念をデジタル活用におけるビジョンと捉えます。
ビジョン実現に向けて取り組まなければならないことを、市民、民間事業者、民間団体・NPO、行政などが一体となり、それぞれの役割や得意分野を生かしながら共助・協力して挑戦します。
大切にしたいことを関係者と共有しながら取組を進めます。

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島 ～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～

- データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり
- 組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり
- 時間・空間の制約を越えた、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
- 情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
- デジタルネットワークを活かした、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり



- 歴史・文化・自然の尊重
- デジタルモラルの醸成で、いつまでも希望に溢れ思いやりのある地域づくり
- 自らデジタルを学び、新しいことにトライし、成功への過程を許容する ※ただし、ベストを尽くすこと！

デジタル活用により取り組まなければならないこと



デジタル技術の活用により、「佐渡市総合計画」に掲げる各基本目標の実現に貢献するとともに、持続可能な島を目指す地域循環共生圏の創出に繋げ、「日本の自立・分散型社会のモデル」として世界に誇れる佐渡島を実現します。

基本目標 1

データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した
安全で快適なまちづくり

佐渡の資源や自然に関するデータを集め、データを共有・活用したマネジメントを実現することで、人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

基本目標 2

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍し
いきいきと暮らせるまちづくり

健康に関するデータを連携し、異なる組織で共有・連携することでシームレスな包括ケア体制を強化し、幸せで健康に暮らせるまちづくりに貢献します。

基本目標 3

時間・空間の制約を越えた、
郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

いつでも、どこでも、いつまでも、世代を越えて学び合える空間を創出し、佐渡の文化を継承する仕組みづくりに貢献します。

基本目標 4

情報が集まるシカケとコラボで、
地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

魅力ある佐渡のあらゆる資源を有効活用するために、データをつなげ、企業間・産業間をつなげ、活力と賑わいのあふれる産業振興に貢献します。

基本目標 5

デジタルネットワークを活かした、
心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

市民にとって身近な行政であり、かつ、市民と市民がつながり、ともに協力し合って創る佐渡の未来にデジタル技術で貢献します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 1 : データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり



佐渡の資源や自然に関するデータを集め、データを共有・活用したマネジメントを実現することで、人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり

1. 防災・防犯・生活・環境

みんなで作る・つながる、いのちを守るための災害対応

災害に関するさまざまな情報を集約し、欲しい情報をタイムリーに市民に届け、市民同士が情報を投稿し合うことで自助・共助の関係を作り上げ、みんなが助け合う災害に強いレジリエンスなまちづくりに貢献します。

誰でも安全で快適なモビリティサービス

車の運転が困難な方々にもさまざまな公共交通機関を利用できる新たな交通体系を確立し、交通事故を減らしながらすべての市民がアクセスできる仕組みを創ります。

グリーンで最適なインフラの実現

自然豊かな資源を活用した水道、自然に優しい下水道、自然と調和した道路保全など、データの活用によるグリーンに配慮したアセットマネジメントを実現します。

ネイチャーポジティブな自然資源マネジメント

生物多様性を維持していくためのデータの蓄積、評価、自然資源の保全という流れを作り上げ、脱炭素社会にも寄与する資源のマネジメントを実現します。

エネルギー循環の仕組み

再生可能エネルギーによる発電・蓄電、マイクログリッド等を統合し、仮想的な発電所として捉え、需要予測や供給とのバランスを最適制御することで、エネルギーを滞りなく届けます。災害時の停電にも強い島を実現します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 2 : 組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍いきいきと暮らせるまちづくり



健康に関するデータを連携し、異なる組織で共有・連携することでシームレスな包括ケア体制を強化し、幸せで健康に暮らせるまちづくりに貢献します。

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍いきいきと暮らせるまちづくり

2. 医療・介護・福祉

医療・介護・福祉・救急の垣根を越えたケアの実現

オンライン診療により遠隔地でも医師の診療が受けられたり、組織の壁を越えてデータ・情報を連携することにより、地域全体で医療・介護・福祉・救急が連動する体制の実現に貢献します。

データに基づく楽しい健康づくりのシ・カ・ケ

蓄積された健康・医療にかかわるデータの分析・活用により、健康イベントへの参加を促したり、食生活等のアドバイスをお知らせしたり、**幸せ**と**健康**の**架け橋**となるような仕掛けづくりを行います。

垣根を越えた地域ぐるみの子育て

「子どもは地域で守る」をモットーに、さまざまな関係者間におけるデータの連携を実現するとともに、オンラインでの相談や地域内・地域間での相談ができる環境を構築します。



デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標3：時間・空間の制約を越えた、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり



いつでも、どこでも、いつまでも、時間・空間の制約を越え、世代を越えて学び合える空間を創出し、佐渡の文化を継承する仕組みづくりに貢献します。

時間・空間の制約を越えた、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

3. 教育・文化

いつでも・どこでも・いつまでも世代を越えた学び合い ～何歳からでも輝ける～

教材や授業のデジタル化、教室をバーチャルでつなぐことで学ぶ空間を創出するとともに、子どもが高齢の方に身近なデジタルツールの使い方を教えたり、高齢の方が子どもにデジタルを使って歴史や文化を教える場を作ります。

一人ひとりの個性を伸ばす教育ダイバーシティ

離島でありながら、すべての子どもにあらゆる選択ができるように、日本中・世界中とつなげ、学校で習うこと以外のスポーツや文化についても学ぶ機会・場を創出します。

距離と時間を越えた文化継承を育むコミュニティ

長い間引き継いできた佐渡の文化的遺産をアーカイブしながら、佐渡島内に限定することなく地理的な制約を越えて次の世代に継承していくとともに、文化財の新たな価値創出に貢献します。



デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 4 : 情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり



魅力ある佐渡のあらゆる資源を有効活用するために、データをつなげ、企業間・産業間をつなげ、活力と賑わいのあふれる産業振興に貢献します。

情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

4. 産業振興・雇用

データでつなげる・とどけるシティプロモーションで佐渡ファンの拡大

佐渡に興味のある人の行動に関わるさまざまなデータを蓄積し、デジタルマーケティングにより産品や観光・文化・アクティビティなどの佐渡の魅力を効果的にプロモーションすることで、関係人口の増大を目指します。

スタートアップと地場企業のコラボレーションで産業振興にシナジーを

佐渡で起業するスタートアップと、佐渡の資源を強みとする地場産業がデジタルテクノロジーの活用により連携することで相乗効果を図り、産業振興に貢献します。

ニーズに合わせた地場産品の高付加価値化とサプライチェーンの構築

欲しい人に欲しいものが届けられる・ダイレクトにつながるサプライチェーンを構築し、佐渡の産品の高付加価値化をもたらし、稼げる農林水産業を実現することで、担い手不足の解消を図ります。

みんなが使えるキャッシュレスで島内経済循環活性化

地域ポイントやプレミアム商品券などに加え、健康づくりやボランティア活動への参加ポイントも統合し、みんなが使えるキャッシュレス決済サービスを浸透させることで、あらゆる場面での利用促進により島内の経済循環に貢献します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 5：デジタルネットワークを活かした、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり



市民にとって身近な行政であり、かつ、市民と市民がつながり、ともに協力し合って創る佐渡の未来にデジタル技術で貢献します。

デジタルネットワークを活かした、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり 5. 市民活動・行政活動

より良い佐渡をみんなで創るための共創的コミュニティの実現

市民が積極的に参画し、佐渡市の未来のために一緒につくる共創的コミュニティをデジタル技術を活用しながら実現するとともに、地域内での交流や集落交流を活性化します。

イケてる行政 ～便利で身近で時代に即した頼れる市役所～

データ活用による政策立案、デジタル技術を駆使した事務の効率化・高度化を実現し、行政サービスの質の向上を図ります。遠隔での行政手続や移動型市役所等の浸透により、コンパクトながら市民に身近な行政であり続けます。

デジタルネットワーク (Digital Network)

デジタル技術を活かして実現する、人と人との繋がり。

例えば、市民、民間事業者、民間団体・NPO、行政などが相互に情報交換・共有でき、さまざまなサービスの提供・享受が行われるための基盤。

デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿



デジタル技術を取り入れ、2031（令和13）年に佐渡市が目指す未来のありたい姿をビジュアライゼーションするため、ビジョンマップとして作成しました。

実現したい未来のイメージのうち、象徴的なデジタル活用シーンを描いています。

市民、民間事業者、行政が、共通のイメージを持ち、連携して取り組むことを目的としています。

2031年頃、デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿

- Vision / 実現したいこと
- Value / 大切にしたいこと

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島 ～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～
 その1 歴史・文化・自然の尊重
 その2 デジタルモラルの醸成で、いつまでも希望に溢れ思いやりのある地域づくり
 その3 自らデジタルを学び、新しいことにトライし、成功への過程を許容する ※ただし、ベストを尽くすこと！



データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり

1. 防災・防犯・生活・環境

① 一目でわかる災害予測・状況配信
県・市の連携で島内情報を集約。被害予測をスマホで受け取り、家族や隣人で事前に声がけ。みんなで備える、これが未来のレジリエンスだ！

② シェアしてハッピーな助け合い交通
呼んだら来るデマンド交通だから免許返納も安心。島民・観光客みんなでシェアする環境にも優しい交通網。

③ スマートエネルギー
発電事業者は島内の電力帯給のモニタリングで電力マネジメントを最適化。余った電力は蓄電してシェア。

④ お手軽エネルギーシェアリング
未来のEV充電はポータブル蓄電池の交換で済んじゃうかも。蓄電池は様々な電気機器に対応、もはや停電のない世界が広がっている！

⑤ 楽ちん除草ロボット
2030年には佐渡米全てがキ認証米かも！減農薬栽培で増える除草作業は機械化で効率化！

デジタルネットワークを活かした、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

5. 市民活動・行政活動

⑥ 次世代カランパン
シェアも使いやすいタブレット等で実現する島民同士の情報交換コミュニティ。集落の垣根を越えた共創的コミュニティでより良い佐渡をみんなでつくりよう！

⑦ カンタン本人確認
役所手続きの為に働く仕事を休むなんてもうイヤだ！マイナンバーカードでカンタン本人確認・書類記入の面倒削減！

⑧ いつでもどこでも行政手続き
自宅にいても、いつでもスマホで役所手続きが完了。みんなが普段使いできるツールで市民と行政の接点を強化！

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり

2. 医療・介護・福祉

⑥ ポイ活で健康づくり
毎日歩いたり、地域活動に参加して心身ともに元気に年齢を重ねよう！活動でゲットした地域ポイントで温泉に入れちゃって健康に！

⑦ ノンストップ医療
スマホでお家からカンタン問診。診察予約～オンライン診療～薬の配送までノンストップ！マイ保険証や地域の仕組みで組織連携が円滑に。

⑧ 地域連携で見守り
地域全体で子どもやお年寄りをサポートできるよう、学校・行政・病院・民間など組織連携を円滑にする仕組みをつくりよう！

情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

4. 産業振興・雇用

⑨ 佐渡産品のロジスティクス変革
生産者と業者間のニーズに即したマッチングで付加価値の高い取引を実現。貨客混載とのコラボで集出荷を支援。

⑩ 島内地域ポイントの統一
行政が発行する地域ポイントを一元化。市民も店舗も使いやすいポイントサービスで消費喚起。エリア関係なく買い回り楽ちん。

時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

3. 教育・文化

⑨ ジュニア×シニア相互学習
子ども・若者からはスマホの使い方など新しい技術を、じいちゃんばあちゃんからは歴史や文化など郷土愛を。だけでなく、社会人やシニア世代のリスニングにも！

⑩ 自宅で海外留学
佐渡にいながらオンラインで自分の学びたいことを自由に学べる環境に。子どもは歴史や文化など郷土愛を。だけでなく、社会人やシニア世代のリスニングにも！

⑪ バーチャル「能」体験
佐渡の文化に触れよう。きっかけとしてバーチャル空間で文化体験。伝統文化継承の新しいカタチに挑戦！

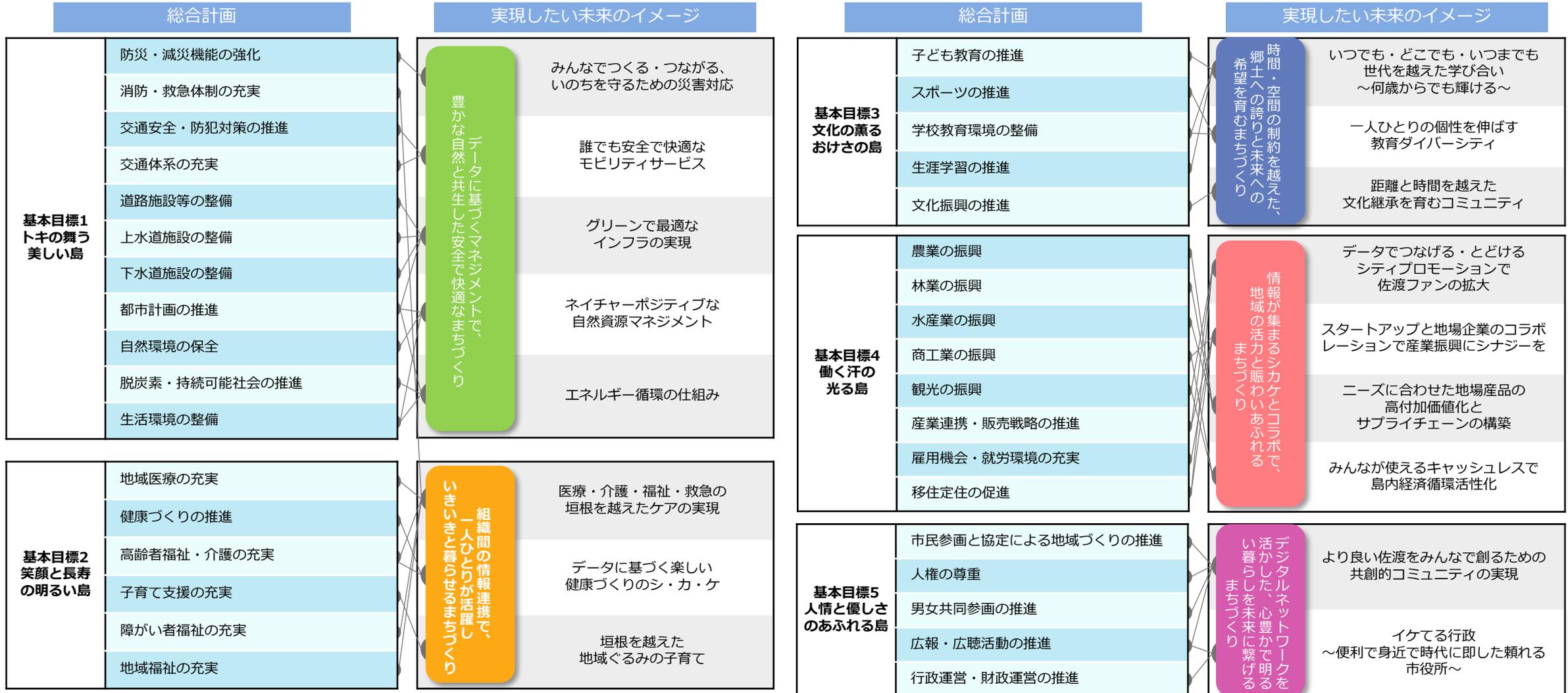


第3章：デジタル活用施策

デジタル活用施策体系図



「佐渡市総合計画」における施策とデジタル活用により実現したい未来のイメージ及びデジタル活用施策の関係を示します。



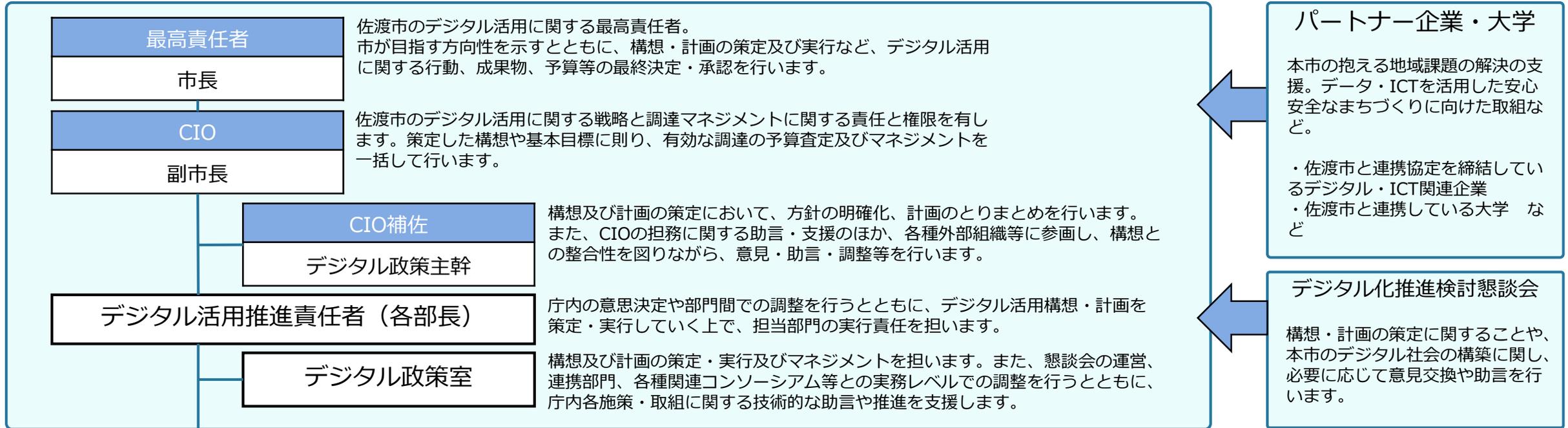


第4章：デジタル活用推進体制

デジタル活用推進体制



構想・計画の策定及び実行にあたっては、市長を最高責任者、副市長を最高情報責任者（CIO）とし、デジタル活用におけるビジョンの実現に向けて各推進担当チームが責任を持って推進する体制とします。



デジタル活用推進担当チーム（各課、関係課）
デジタル活用計画に掲げた具体的な施策や取組（事業）を推進します。チーム構成員は、関係課による庁内横串で組織し、関係課長より選出したチームマネージャーを配置します。事業の実行にあたっては、デジタル活用推進責任者に意思決定を行います。

ワーキンググループ
デジタル活用計画の実行にあたり、技術革新や新技術の利活用など、短期的に調査・検討、施策立案・事業化を行います。グループ構成員は、デジタル政策室が中心となり、必要に応じて関係課に協力を求めます。

デジタル技術の進展スピードが極めて速い昨今においては、日々新たな技術や概念が誕生しています。こうした中で計画を実行に繋げるためには、これまでになかった機動的な組織体制や、通常とは別系統のワークフローの構築が必要となります。技術革新や新技術の誕生により、計画の変更や、推進中の施策・取組の転換ということも想定しなければなりません。これら課題に柔軟に対応しながら本市のデジタル活用社会を実現するため、推進体制についても逐次見直しを図ることとします。

佐渡市デジタル化推進検討懇談会

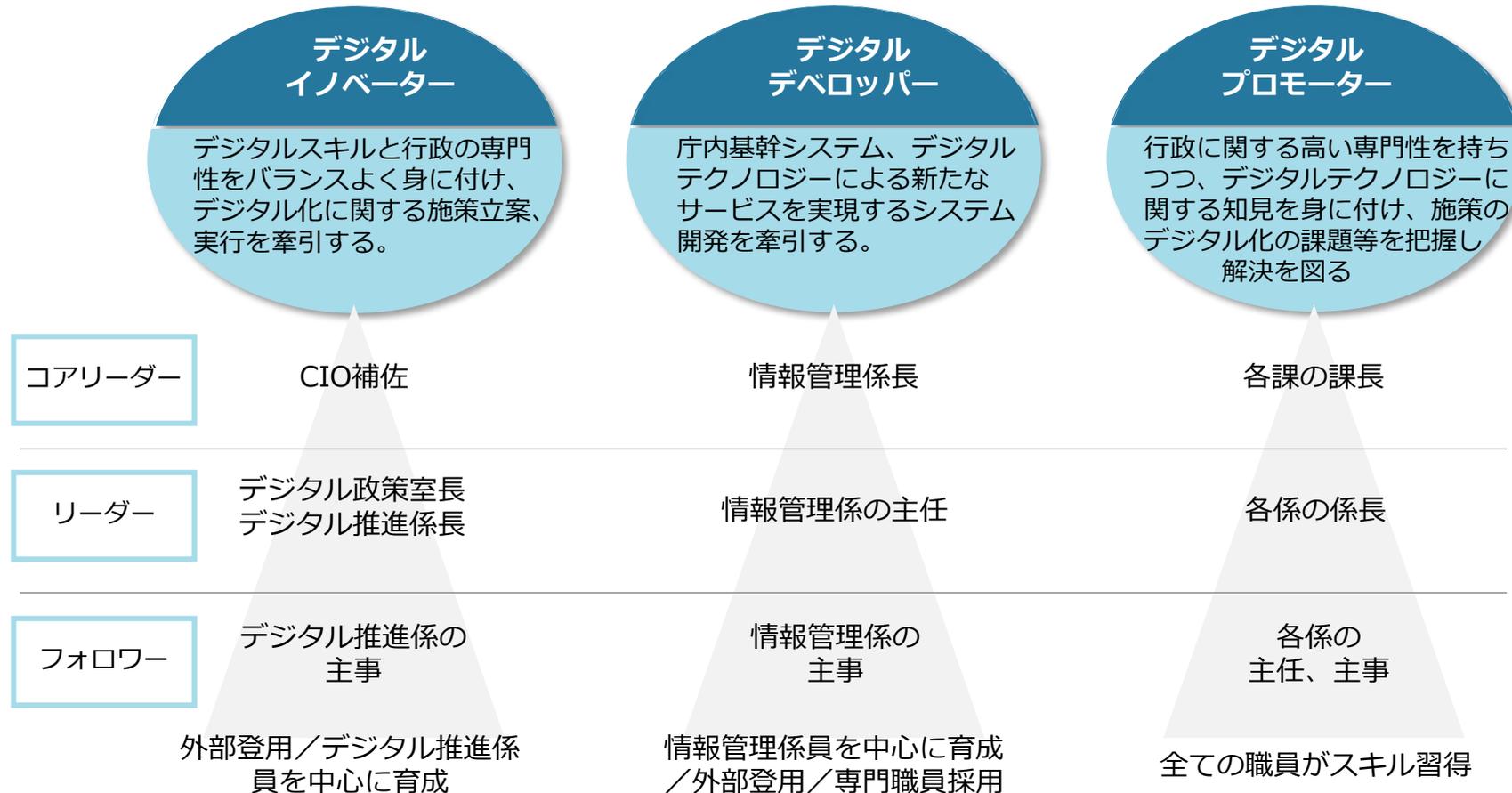
本市において、デジタル社会の構築に向けた取組を迅速かつ着実に進めていくため、基本の方針及び具体的取組を示す「佐渡市デジタル活用構想・計画」の策定にあたり、広く有識者等から意見・助言等を求めることを目的に「佐渡市デジタル化推進検討懇談会」を設置しています。



デジタル人材の育成の考え方



進展スピードが極めて速いデジタル技術を活用し、地域課題の解決や行政サービスの効率化・高度化を図るためには、すべての職員が変革意識を持ちながら、デジタル技術を使いこなせるようになる必要があります。本市では3つのカテゴリにおいて、デジタル活用を推進するための人材の育成・確保に努めます。



育成・確保の考え方

デジタルイノベーター	デジタルデベロッパー	デジタルプロモーター
<ul style="list-style-type: none"> デジタル活用構想の実現、デジタル活用計画を実行しながら、デジタル化推進スキルを身に付ける。 外部の研修・セミナーを受講し、デジタル化推進スキルを習得する。 資格取得によりデジタルテクノロジーの専門知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル活用構想・計画の推進と連動した現行システムの改修や新規システム開発に参画しながら、デジタルシステムの実現スキルを身に付ける。 外部の研修・セミナーの受講、資格取得によりデジタルテクノロジーの専門知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル活用構想の実現、デジタル活用計画の実行にあたり、関係する政策に参画し、デジタル化に関するリテラシーを身に付ける。 外部の研修・セミナーの受講、資格取得によりデジタルテクノロジーの基礎知識を習得する。



<https://www.city.sado.niigata.jp/>